

地域との交流から 札幌国際センター・帯広国際センターの行事

「地域ふれあいコンサート」(札幌) (平成17年7月14日)



初めに清め草の踊り、タクサ・リムセを舞う



超若手メンバーも参加してチカップ・ウボボ(鳥の舞)

札幌国際センターが研修員のために年4回開催している。当夜は今年度第1回目で、札幌を拠点にコンサート活動などを行っている「アイヌ・アート・プロジェクト」(結城幸治代表)が、「チカップ・ウボボ(鳥の舞)」、「フツラレ・チュウイ(黒髪の踊り)」、「フチ・トノト(お酒を買いに行くおばあさん)」など、自然との関わりや生活を表現した歌や踊りなどを披露した。また、伝統楽器のムツクリ(口琴)とトンコリ(弦楽器)のソロ演奏を聴かせてくれた。

コンサート冒頭、「私たち

はアイヌです」と自己紹介する民族衣装の結城代表の挨拶では緊張していた会場の研修員たちも、心にしみる音楽や子供たちも参加しての踊り、迫力のギター演奏などに次第になじんでカメラを向ける人も多かった。地元市民も招かれほぼ満席の盛況の中、会場からも参加しての輪踊り(ポロ・リムセ)で終了した。

同プロジェクトは、民族伝統の楽器にギター、ベース、パーカッションをフューチャーしたバンドでの演奏活動のほか、木彫り、版画、刺繍、着物製作など伝統技術の継承にも努め、市内のギャラリーで展示している。



会場いっぱいの研修員からの拍手

「第19回パークゴルフ国際大会」(帯広) (平成17年6月25、26日)



北海道知事杯・プリジストンスポーツ杯をかけたパークゴルフ国際大会が今年も、晴天に恵まれた十勝管内幕別町の幕別町運動公園のパークゴルフコースで2日間にわたって開催された。子供からお年寄りまで幅広い年齢層が楽しむことのできるスポーツとして普及したパークゴルフを通じて各国の人々と交流しようと毎年開催されているもので、今年も研修員、留学生、地元在住者など外国人79名を含め126名が参加した。

グループで行う競技で日本人と外国人がいっしょにコースを回るが、最初は言葉が通じなくて困っていた研修員も終了時には仲良くなって戻ってくるなど国際大会ならではの親善、交流が図られた。参加した研修員からも「大会に参加して新しい友だちがたくさんできました」とか「パークゴルフも知りましたが、日本人と交流する機会にもなりました」と感想を述べていた。

北海道内の国際協力・国際交流団体から 地域の活動

地元小学生等とサッカー交流試合

8月13日(土)、青年海外協力隊OB会の呼びかけにより、北海道海外技術研修員と協力交流研修員、JICA研修員が、恵庭市内のグラウンドで地元の小学生、専門学校生とサッカーを通じて交流を深めた。

このサッカー交流会には、アジア、アフリカ、南米などからの研修員27名を含む約120名が参加し、研修員のチームは小学生低学年から専門学校生までの4チームと熱戦を繰り広げた。

当日は晴れ渡った夏空の下、研修員は小さな小学生を相手に真剣な表情でボールを追いかけるなど、心地よい汗を流していた。ゲームの後には、芝生のグラウンドに気持ちよさそうに寝転がったり、小学生と一緒に写真に収まるなど、日頃の研修を忘れ、短い北海道の夏を思い思いに楽しんだ。



北海道国際協力フェスタ2005 10月8日(土)に開催

今年は、例年と会場を変更し、JICA札幌(札幌市白石区本通16丁目南4-25)と隣のリフレサッポロ・ライラックホールを会場に開催します。(参加自由)

JICA札幌の1階、中庭ではNGO活動相談、情報コーナー、エスニックカフェなどを、2階ブリーフィングルームなどではNGO紹介ブース、チャリティーバザーを行います。

また午後5時から、ライラックホールでアフリカから来日中の太鼓奏者による恒例の音楽ライブを行います(大人2,500円 子ども(中学生以下)1,000円)。

以上についての問い合わせは、北海道YMCA内、フェスタ事務局(担当・佐藤雅一さん)

電話:011-561-5642 FAX:011-563-0041へ。